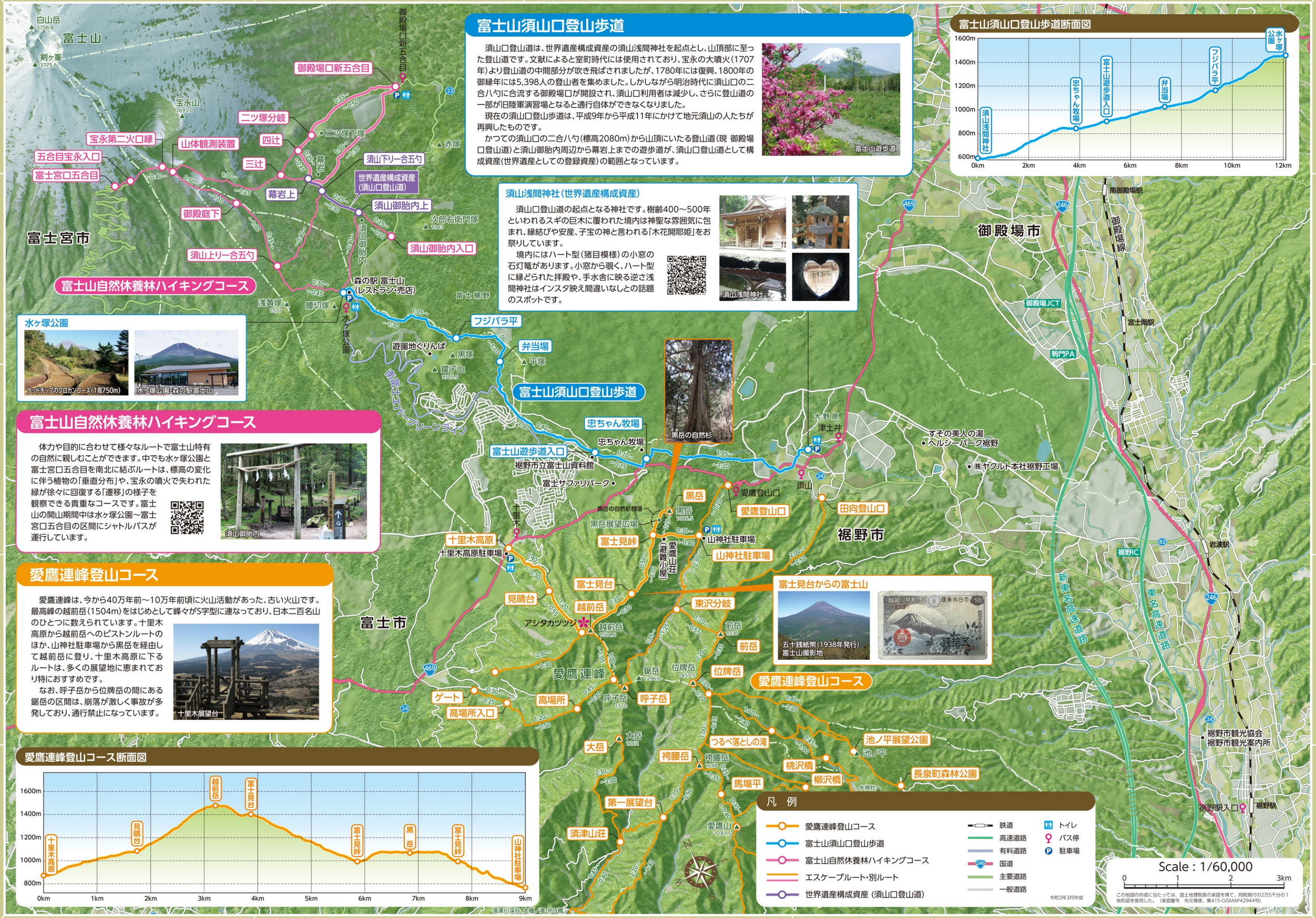

富士山須山口登山歩道

須山口登山道は、世界遺産構成資産の須山浅間神社を起点とし、山頂部に至った登山道です。文献によると室町時代には使用されており、宝永の噴火（1707年）より登山道の中間部分が吹き飛ばされましたが、1780年には復興、1800年の御縁年には5,398人の登山者を集めました。しかしながら明治時代に須山口の二合八勺に合流する御殿場口が開設され、須山口利用者は減少し、さらに登山道の一部が旧陸軍演習場となると通行自体ができなくなりました。

現在の須山口登山歩道は、平成9年から平成11年にかけて地元須山の人たちが再興したものです。

かつての須山口の二合八勺（標高2080m）から山頂にいたる登山道（現 御殿場口登山道）と須山御胎内周辺から幕岩上までの遊歩道が、須山口登山道として構成資産（世界遺産としての登録資産）の範囲となっています。

富士山遊歩道

須山浅間神社（世界遺産構成資産）

須山口登山道の起点となる神社です。樹齢400～500年といわれるスギの巨木に覆われた境内は神聖な雰囲気に包まれ、縁結びや安産、子宝の神と言われる「木花開耶姫」をお祭りしています。

境内にはハート型（猪目模様）の小窓の石灯篭があります。小窓から覗く、ハート型に縁どられた拝殿や、手水舎に映る逆さ浅間神社はインスタ映え間違いなしとの話題のスポットです。

須山浅間神社

水ヶ塚公園

ウッドチップのクロカンコース（1周750m）

水ヶ塚公園・森の駅富士山

富士山自然休養林ハイキングコース

体力や目的に合わせて様々なルートで富士山特有の自然に親しむことができます。中でも水ヶ塚公園と富士宮口五合目を南北に結ぶルートは、標高の変化に伴う植物の「垂直分布」や、宝永の噴火で失われた緑が徐々に回復する「遷移」の様子を観察できる貴重なコースです。富士山の開山期間中は水ヶ塚公園～富士宮口五合目の区間にシャトルバスが運行しています。

須山御胎内

愛鷹連峰登山コース

愛鷹連峰は、今から40万年前～10万年前頃に火山活動があった、古い火山です。最高峰の越前岳（1504m）をはじめとして峰々がS字型に連なっており、日本二百名山のひとつに数えられています。十里木高原から越前岳へのピストンルートのほか、山神社駐車場から黒岳を経由して越前岳に登り、十里木高原に下るルートは、多くの展望地に恵まれており特におすすめです。

なお、呼子岳から位牌岳の間にある鋸岳の区間は、崩落が激しく事故が多発しており、通行禁止になっています。

十里木展望台